

郷土かみのかわの歴史・文化財

上三川の地域と歴史 西木代

西木代は、上三川町の北東部、西を江川、東を谷川に挟まれた鬼怒川低地に位置し、北は宇都宮市と境を接している小さな農村地区です。明治時代までは西木代村と呼ばれていました。

地区の鎮守は、高竈神社です。この神社は、高竈神社古墳の頂上部に建てられています。ちなみに古墳の中腹には霊府

神社が鎮座しています。霊府神社は、耳などの穴のある気

管の患いに霊験があるといわれています。このように古墳の上に神社が建てられる事例は全国的に見られ、町内ではほかに上神主の浅間神社古墳が

あります。このような事例では、古墳の埋葬者と神社の祭神に関連は見いだせません。おそらく、古墳の頂上部は見

晴らしが良く、神社を建てるのに適した高台だったのでしよう。

また、この古墳の前には、「ぼなり石」という名の大きな石があります。その昔、この石は西木代から上文挟へと続く道と旧県道が交わる地にありました。当時、この場所には小さな笹屋敷があり、古屋敷といっていました。狐の住み家となっており、道行く人々に悪さをしていたという言い伝えが

あります。

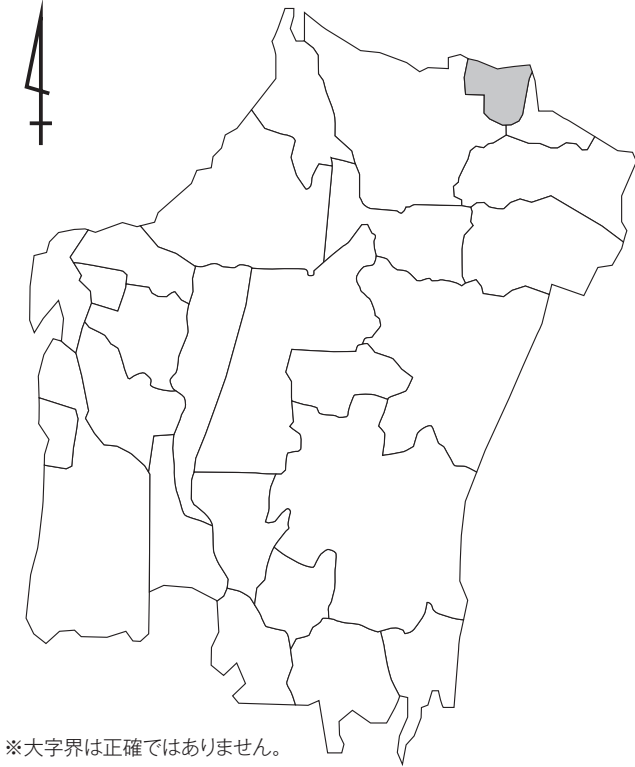
西木代では、3年に一度「天祭」というお祭りが行われます。このお祭りは、「天棚」と呼ばれる屋台を組み立てて、五穀豊穡・無病息災などを神仏に祈るお祭りです。江戸時代後期から宇都宮を中心に盛んに行われました。西木代の天棚は、組立式二階作りの屋台で、周りに彫刻の施された大変立派なものです。なお、伝承によると西木代の天棚は、江戸時

代末期から明治初期にかけて、地元の棟梁・篠原要次郎が手掛けたものといわれています。

先に述べた高竈神社古墳、天棚に加え、薬師堂、石幢といった文化財は、町の指定文化財となっています。これらの文化遺産が今日まで伝わり、私たちが目にするのができるのも、地域の方々の手によって大切に守られてきたからにほかなりません。

高竈神社古墳

天祭の様子



※大字界は正確ではありません。



高竈神社古墳



天祭の様子